

# 【ねがいましては】

平成12年9月25日

第128号

KYOWA SCHOOL

「目線を変えて」

9月24日（日）、珠算連盟の地区会議が東京都中央区で行なわれるため、初めての試みですが、自転車で行きました。距離にして25～30キロメートルほどの道のりになります。当日、シドニーオリンピックで、高橋さんがマラソンで金メダルを取り、やっと秋らしくなり始めた涼しさも手伝ってか、「よっしゃ」との気持で出かけました。目標時間を「1時間」にして、（実は、1時間でいかないと遅刻）意気揚揚とスタートはしましたが、あらためて驚いたことは、「橋」のきつさでした。坂道がここまでつかったかと、気がつきます。自分の体力不足なのか、あたりまえなのか、ふだんは車でスイスイの「橋」が「おっと！」。

ふと気がついたこと、大人の眼から見て、「こんな簡単なこと・・」と思っている問題を、我が子が「バツ」をとつくると、ついつい「かっ！」となってしまうお母様、けっこうお子さんは一生懸命に考えているものです。テストをしている姿は、きっと真剣です。尊いのはこの部分だと私は思います。なかなか途中の部分を評価されないことが多い中、結果ばかりが重要視される世の中ですが、この小さな教室では、せいいっぱい生きようとする気持、真剣に取り組んでいる姿に、「フレーフレー」のエールを贈りたいのです。

結果をあまりにも気にしすぎるために、自分の本来の力を出せずに終わってしまう選手達。「プレッシャー」です。高橋さんの「金メダル」は、やることはやった、「我が練習に悔いはなし」の胸中ではなかったのでしょうか。「思いきり楽しみました。」の彼女の言葉の中には、「プレッシャー」を見事に吹き飛ばした、自分への「自信」があったように思えます。ここまでやったぞ、おまえ本当によくがんばるな、「えらいなー」という、小出監督の「誉め」が彼女の心の中に大きな大きな「プレッシャーを感じさせない自信」を育ませたのではないかと思います。

東京からの帰り道、荒川を渡る橋の頂上に来た時、かなりのスピードで走りすぎる「車たち」を横目で見ながら、なんともいえない「満足感」を味わえたのは、途中、何度も降りて歩こうかと思いつつ、降りずにたどりついた事への自分への「誉め」であったように思えます。

さて、ついつい感情的になってしまう「お母さん」「お父さん」、テストの点に心を奪われないで、お子さんと自転車で橋を渡ってみてください。我が子の成長ぶりに驚かれるはずです。

そして、坂を登っている途中のお子さんの表情に、「エール」を贈ってください。その表情から、お子さんがいかにがんばっているか、きっと学校のテストのときでも同じ表情でがんばっているのだなとわかると思います。たとえ途中で自転車を降りて歩いたとしても、歩いているではないですか。へこたれていな「事実」があります。その姿勢こそ、「100点」なのです。

1時間10分、10分遅刻です。先生方にはご迷惑をおかけしましたが、「いやー気持ちいい！」それにしても、疲れが取れないなー！

10月の予定

10月 2日（月） 珠算検定試験合格発表・・ KYOWA SCHOOL

16日（月）～21（土） 地区主催そろばん・暗算ギネス週間

\* 第2弾・・ミニミニ見学会ただいま計画中！ 第1弾、品川水族館は、なつ、なんと20名で行きました。たくさんの参加ありがとう！ イルカさん・アシカさんかわいかつたですね。きつぷも自分で買ったし、乗り越しきつぷも買えたし、おとなへの第一歩でした。